

ふくいの先輩たちの「いま・ちょっと先・ずっと先」 仕事とか、私の未来とか、

プロバスケットボールクラブ 福井ブローウィンズ（株式会社オールコネクト所属）

西澤穂乃花さん

Profile | 越前市出身。福井商業高校チアリーダー部JETS時代、全米制覇。仁愛女子短期大学卒業後、通信インフラサービスのオールコネクト入社。2023年より現職。



仕事でも地域の活動でも、
新たな風を巻き起こしたい。

今、体がいくつあっても足りないほど忙しい。でも充実している。はじめは、福井ブローウィンズのオーナーである所属会社が、広報担当を社内公募したこと。「プロスポーツが育たない福井で、プロバスケが根づくのか?」そんな疑問を持ちながら、「できるのは私しかない」と公募に手を挙げた。JETS時代、地元の人々の応援に支えられ、「いつか恩返しを」と思い続けていた私だからこそそのせりふだった。

高校に入学したてのときは、そんなことは決して言わない、感情を表に出さない生徒だった。間もなく恩師から、「あなたが持つ感情を大切にしよう」とアドバイスをされた。それからだ。自分の気持ちに向き合い始め、心からの笑顔でチアに取り組み始めたのは。今でも仕事でうまくいかないと、自分と向き合うように泣くこともある。でもそれは、悔しさだけではない。「やってやる」という前に進むための涙でもあるのだ。

私には、夫と5歳、3歳の子どもがいる。最初の子を出産したのは、課長になったばかりの24歳のとき。仕事と子育てを両立できるか悩んだ。その私を支えてくれたのは、夫であり両親。家族が暮らす、地域コミュニティの大切さも改めて知った。

広報担当として目指す未来は、「クラブを広島カープのような存在にすること」。地方都市の広島がチームカラーの赤で染まったように。福井にもプロバスケという新しい文化を根づかせたい。もうひとつの未来は、“家族カフェ”を開くこと。家族が喜び、地域で暮らす人たちが笑顔になるコミュニティーカフェを。私は、地域に風を吹かせ生きていく。

ハピラインふくい 福井駅

林 琉貴さん

Profile | 大野市出身。奥越明成高校卒業後、北陸新幹線福井開業に伴い設立された、ハピラインふくいに入社。福井駅務を担当。趣味は自動車、スノボ、ゲーム。



高校時代の自分からは想像できない、
“本気”で仕事に取り組む自分がある。

この取材を受けたのは、ハピラインふくいが開業する1カ月前。開業の瞬間を味わえるという理由で入社して以来、いろんな業務を学んできた。「駅運転業務」という資格にも挑戦した。災害や設備故障のとき、信号を使って車両を制御する大切な役割だ。先輩のかっこいい姿に憧れ、やっと独り立ちしたばかり。開業はもうすぐだから、ちょっとあせている。もっと先輩たちから吸収しないと。

そんな僕の“本気顔”を、3年前の高校生だった自分が見たら、「何をそんなにイッシュウケンメイになってるんだ」と冷めた声で言うかもしれない。高校までは、やりたいことが見つからなかった。熱中していたことといえばスノボだったけど、インストラクター資格に挑戦するほどは練習しなかった。「もう勉強したくない」という消去法で、就職一択だった。

その3年後に、「自分のやりたいことが見つかった」と話しているんだから不思議。電車に乗ったことは修学旅行ぐらいという僕が、鉄道事業に携わっているのだから、それも不思議だ。

開業に備え忙しくて、好きなスノボもあまりできない。帰ったら、すぐ寝てしまう（休みはちゃんともらっているけど）。でも、僕の仕事選びは間違っていない。安全・安心が求められる仕事だからこそ、責任感を強く持つようになった。後輩たちができたから、頼られる存在になるため勉強しなきゃとも思う。

駅運転業務をしっかり身につけたら、運行状況を監視し、ダイヤの乱れが起きたら指示を出す「指令業務」に挑戦したい。その先は、ダイヤの作成も。僕の鉄道を支える人生は始まったばかりだ。

皆さんからちょっと年上の先輩たちは、どんな人生を歩んでいるのだろう。
それぞれ個性豊かな道を行く先輩たちに、
「高校時代のこと」「その道を選んだ理由」「これからの未来」—について聞きました。

インスタグラマー・ラジオパーソナリティー

Betty (ベティ) さん

Profile 坂井市出身。昨年3月、福井大学国際地域学部卒業。インスタのフォロワー数は1万人超。FM福井のパーソナリティー、動画クリエイターなどで活動中。

まちづくりプレイヤー

半田智咲さん

Profile 福井市出身。福井商業高校1年のとき、福井駅前をにぎやかにするイベントを企画運営。以来、さまざまなまちづくりに携わる。看護師を目指している。



大学を卒業して1年

「こうあるべき」から解放されて、私らしく、Bettyで生きていく。

きょうのファッションテーマは、「カフェで仕事をしているフリーランサー」。本紙に登場する高校生の先輩らしく、ゴールドの時計とリングを合わせておとなっぽくまとめた。

そんなふうに私はBettyの名前で、80・90年代のアメカジ古着とか大好きなファッションをまとった自分を発信している。福井が大好きだから、レトロ喫茶店やコスモス畑なども背景に使って、1万人超のフォロワーが集まるインスタを育ててきた。

でも高校のときは、Bettyの“ジंकク”は閉ざしたまま。「こうするべき」という世の中の暗黙のルールに縛られていた。スタイルがいいわけじゃないから「このファッションは似合わない」、進路選びも「親が喜ぶだろうから地元の国公立大学にしよう」なんて。

Bettyになれたのは、大学に入学してから。私のファッションを見て、「きょうのテーマは何？」なんて聞いてくれる友人たちもできたり、学内の留学生からは“自分らしさ”を大切にすることが当たり前と教えられた。バイト先のオーナーも、「Bettyで働いていいよ」とありのままを受け入れてくれた。

大学卒業後の進路は迷った。「就職しなかったら、どうなるんやろ？」って。でも大学4年の夏、ラジオパーソナリティーとしてデビューできた頃から、「未来のことは、未来の自分に任せよう」と決めた。

インスタをベースに、ファッション関係のモデルや広報のサポートとしての活動も始まった。ラジオパーソナリティーでも、福井弁のアクセントそのままに自分らしさを届けたい。未来も、私らしいBettyで生きていく。



高校を卒業したばかり

自分も、みんなも、元気になあれ。まちづくりで、看護の道で。

「福井駅前には、高校生をワクワクさせるものがない」。「じゃあ、私がつくろう」。それが、ストリートカルチャーをテーマにしたイベント「STREET PARADISE 2021」のきっかけ。

8月に企画を立ち上げ、開催は11月。めちゃくちゃ忙しかった。場所を使うために行政などと打ち合わせをしたり、学校にチラシを配るために電話をかけまくったり。学業と両立させる、と決めていたから勉強もがんばったし。

ゼロから実施までたどり着けたのは、今振り返ると「おとなたちと一緒に運営を手伝ってくれた高校生たちの力が大きかった」。“（成功できたのは）奇跡だったのかもしれない” “（私がかかわったのは）運命だったのかもしれない”と思うぐらい。

まちづくりが縁で、コミュニティナースの看護師さんと出会い、看護師になりたいという思いが強くなった。県外に出るか県内に残るかは、すごく悩んだ。でも、若者を応援してくれる福井のおとなたちの存在は大きかった。私は春から、県内の看護大学に進む。まちづくりは、これからも関わり続けたい。

ちょっと先も、ずっと先も、自分がそのときにやりたいことを、やれている自分でいたい。留学もしたいし、県外企業のインターンも経験したい。年を取っても、日本一周旅行や海外一周旅行に挑戦したい。

もうひとつの思いは、「みんなの笑顔を増やす」こと。中学生のとき精神的にまいっていた時期があって、保健室の先生から「ありのままがいいよ」と言われ救われた。だから養護教諭の道も視野にある。私は、自分の可能性を広げられる道を突き進む。